



県内建設産業の現状



埼玉県 県土整備部 建設管理課



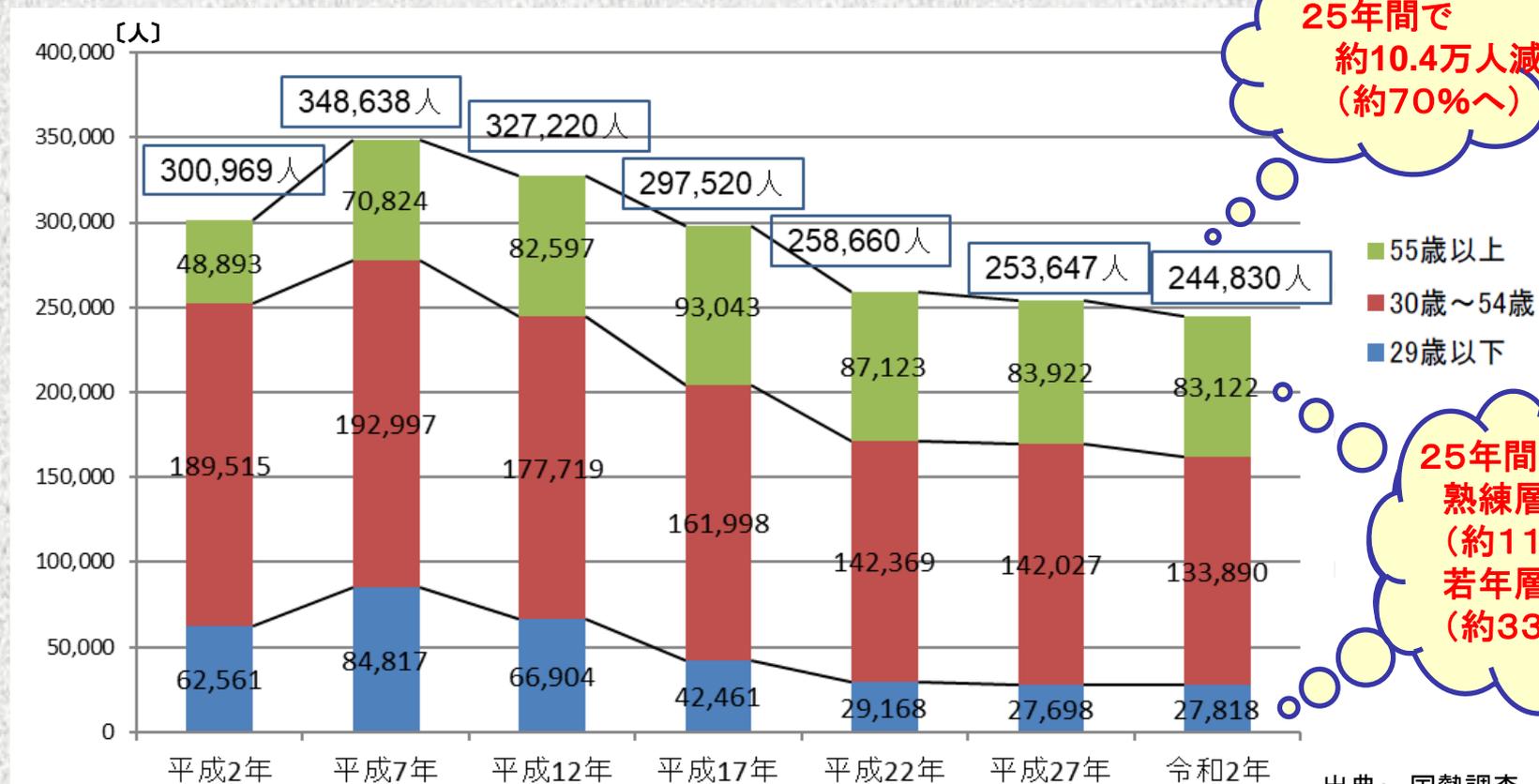
県内建設業の現状について

- (1) 担い手・・・従事者数、年齢階層別就業割合、
求人倍率、工業高校生徒数
- (2) 就業環境・・・労働時間、出勤日数、休日、
労働生産性
- (3) 近年の動向・・・猛暑日、CSF、台風19号、新型コロナ、
オリ・パラ、原油高・物価高騰



1. 県内建設業の現状について (1)担い手

◆埼玉県内の建設業従事者数の推移

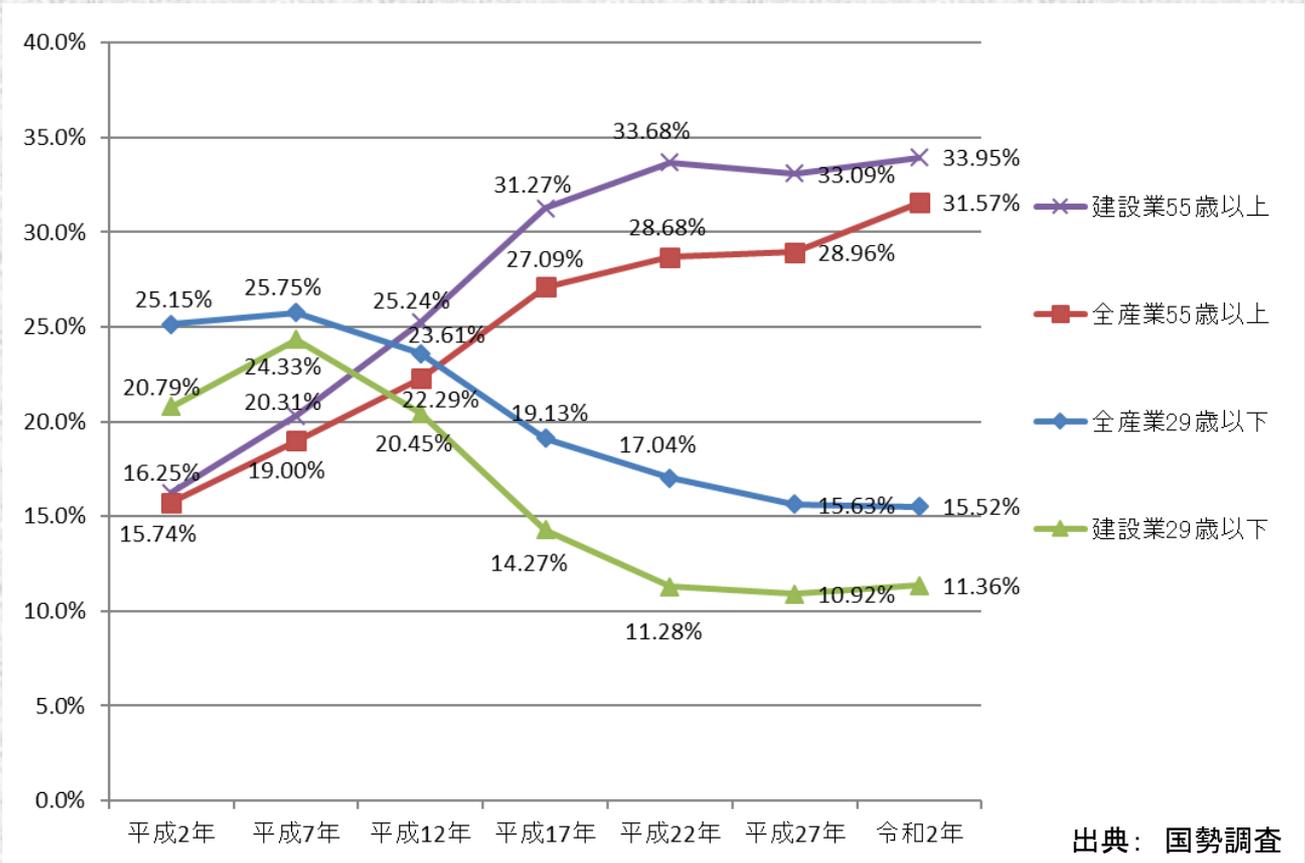


出典：国勢調査



1. 県内建設業の現状について (1)担い手

◆埼玉県内の年齢階層別就業者の割合の推移(全産業・建設業)



全産業・建設業とも

- ・ 55歳以上が増加
- ・ 29歳以下が減少



建設業の乖離が大



建設業において

- ・ 担い手が不足
- ・ 技術の伝承が懸念



1. 県内建設業の現状について (1)担い手

◆ 埼玉県内の職業別有効求人倍率の推移

職業計	R4.4	R3.4	H31.4	H29.4	H27.4	H25.4
全体	0.88	0.80	1.12	1.02	0.68	0.51
管理的職業	0.88	0.87	1.12	0.96	0.69	0.56
専門的・技術的職業	1.21	1.11	1.17	1.53	1.10	0.92
建築・土木技術者等	3.13	2.82	3.18	4.16	2.55	2.18
事務的職業	0.25	0.19	0.35	0.33	0.24	0.16
販売の職業	0.99	0.91	1.82	1.40	0.82	0.57
サービスの職業	2.16	1.92	3.09	2.76	1.72	1.12
介護サービスの職業	3.56	3.47	4.64	3.25	2.27	1.45
保安の職業	4.70	3.89	8.70	8.45	3.16	1.89
農林漁業の職業	0.97	0.66	1.07	1.07	0.82	0.65
生産工程の職業	1.48	1.10	1.88	1.61	0.84	0.52
輸送・機械運転の職業	1.36	1.32	2.21	1.97	1.28	1.09
建設・採掘の職業	4.62	4.61	6.41	4.71	3.39	2.90
建設躯体工事の職業	7.12	6.39	13.45	8.29	4.56	7.40
建設の職業	3.86	4.31	5.88	5.14	3.82	3.22
電気工事の職業	3.42	3.22	4.15	2.85	1.99	1.48
土木の職業	4.99	5.01	6.04	4.74	4.11	2.59
採掘の職業	-	13.00	3.00	4.00	-	2.00
運搬・清掃等の職業	0.50	0.47	0.89	0.87	0.52	0.37

技術者
技能者
ともに
高い水準

出典： 埼玉労働局HP「求人・求職バランスシート」



1. 県内建設業の現状について (1)担い手

◆埼玉県内工業高校(建設系)の募集人員の推移

	学校名	学科名	H9年度	H22年度	H31年度	志願者倍率 (R5.2.22)
1	いずみ	環境建設	80	40	40	くくり募集 1.27
2	浦和工業	設備システム	80	40	40	0.43
3	大宮工業	建築	80	80	80	0.78
4	春日部工業	建築	80	80	80	0.83
5	川越工業	建築	40	40	40	0.98
6	熊谷工業	建築	40	40	40	0.80
7	〃	土木	40	40	40	0.83
8	玉川工業	建設技術	80	40	0	
	合計		520	400	360	
	(増減)			▲ 120	▲ 40	

約20年間で
・4クラスが減少
・1学校が廃止 (H25)



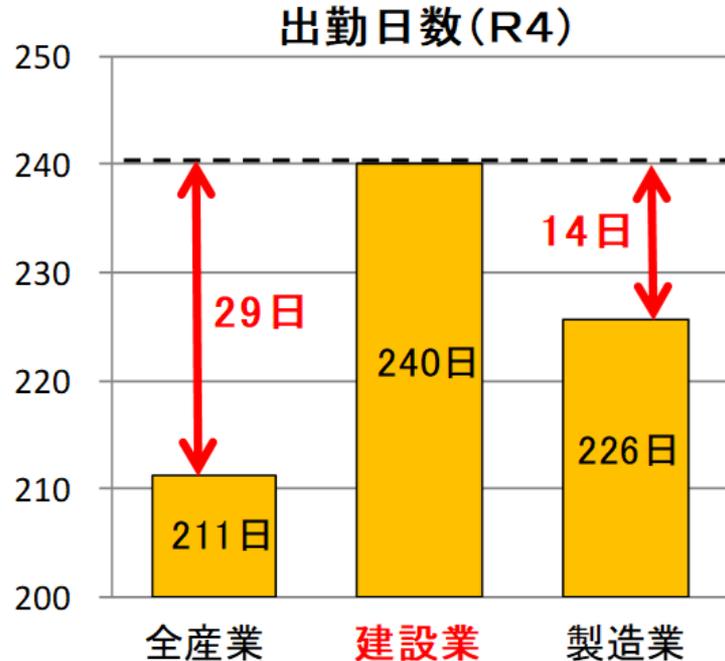
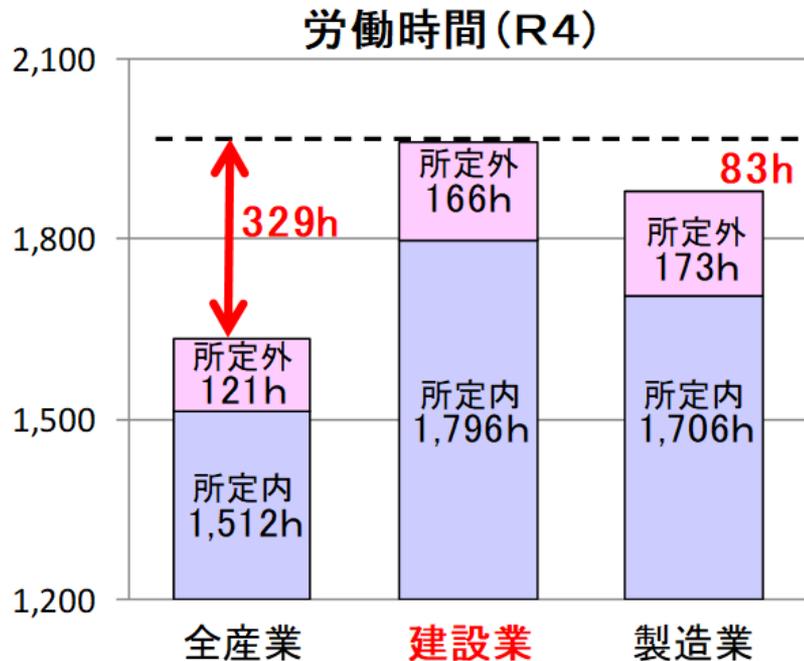
建設業において
・担い手不足が懸念
・技術の伝承が懸念

出典：埼玉県教育局資料



1. 県内建設業の現状について (2)就業環境

◆産業別 令和4年度 年間労働時間及び年間出勤日数



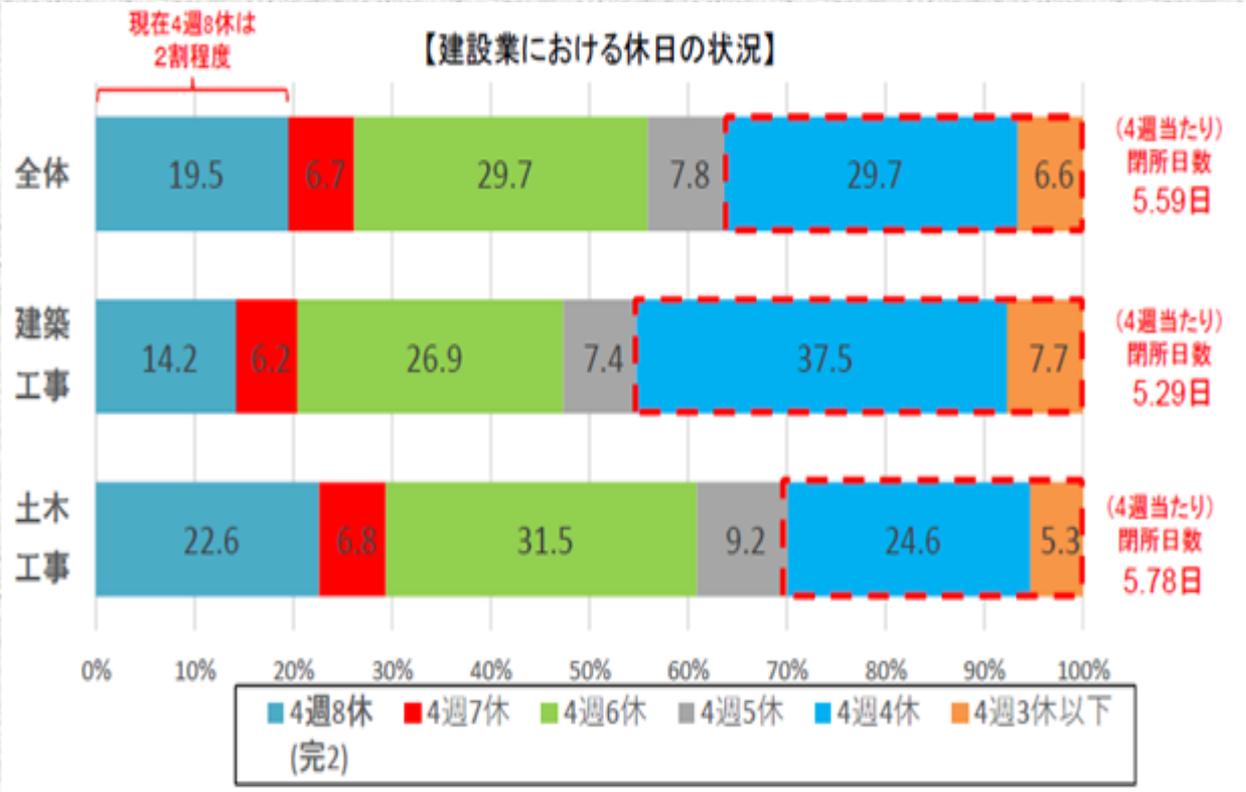
※所定内:就業規則で定められた勤務時間内の労働時間
※所定外:就業規則で定められた勤務時間を超えた労働時間

出典: 厚生労働省「毎月勤労統計調査」



1. 県内建設業の現状について (2)就業環境

◆建設業における休日の状況(技術者)



4週8休を達成している現場は約2割に満たない

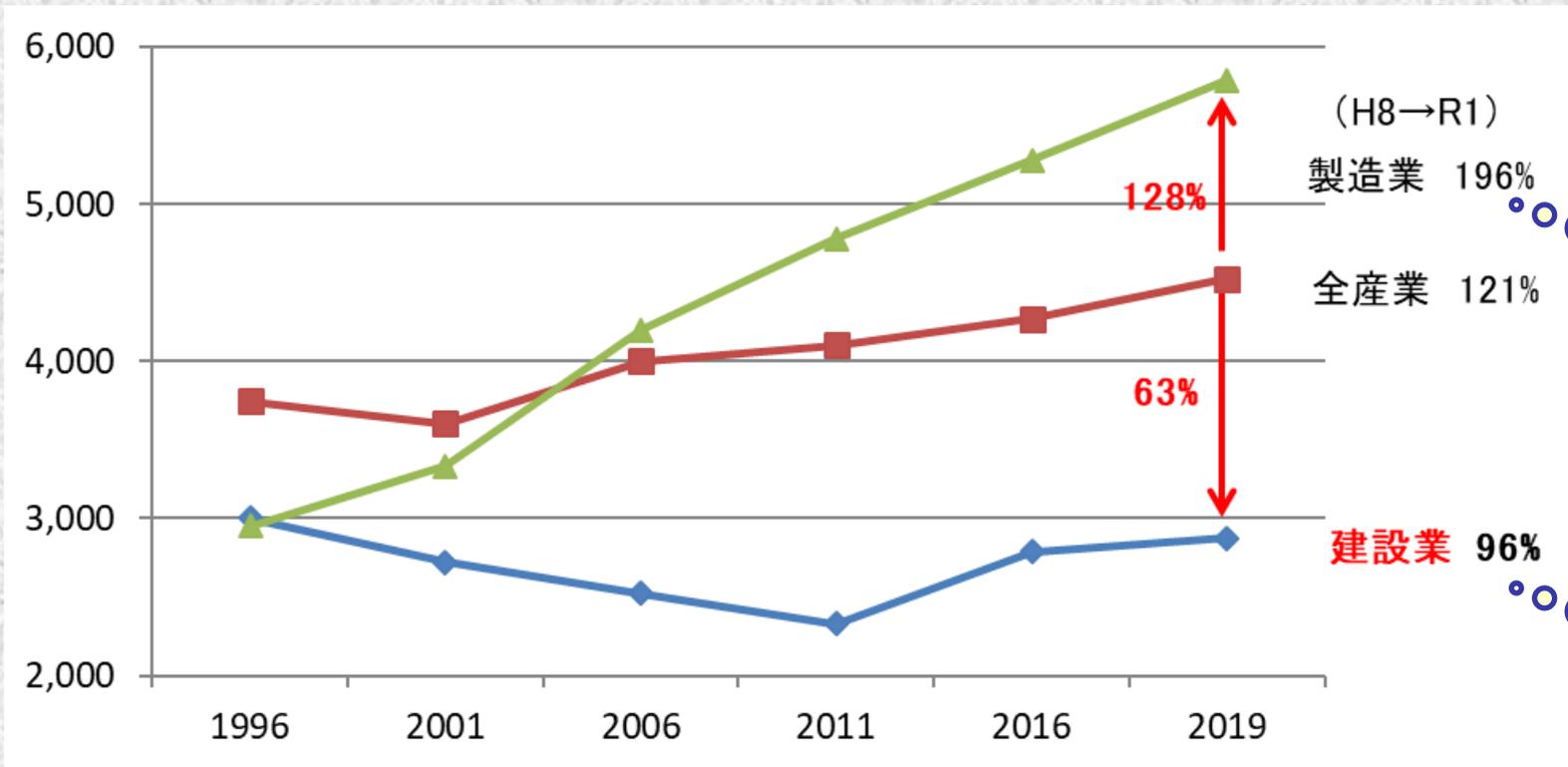
現状では、4週4休以下が、約4割を占める状況

出典：日建協「2020時短アンケート」を基に作成



1. 県内建設業の現状について (2) 就業環境

◆ 産業別 労働生産性の推移



大量生産
工場製造

単品受注
屋外施工

(注)労働生産性＝実質粗付加価値額(2015年価格)/(就業者数×年間総労働時間数)

出典：(一社)日本建設業連合会「建設業ハンドブック2021」



1. 県内建設業の現状について (3)近年の動向

◆工事等に係る主な動向

年度	事項	現状及び対応
H30	猛暑日	○ 全国で記録的な猛暑。気象庁は「命の危険がある暑さ。一つの災害と認識」。熊谷市で国内観測史上最高を更新(41.1℃) ● 「 工期の延長 」の対象。「 現場管理費の補正 」の試行。
R1	CSF(豚コレラ)	○ CSFウイルスにより起こる豚、いのししの熱性伝染病。県内養豚場での疑似患畜が確認。 ● 「 防疫措置 」の実施。「 ワクチン接種 」の実施。
R1	台風19号	○ 河川の越水、溢水、破堤などが発生。 ● 県は「 131箇所の災害査定 」を実施。「 災害復旧工事 」の発注。
R2	新型コロナウイルス	○ 新型コロナウイルスによる感染症が世界各地で発生。 ● 受注者の申し出により、工事等の「 一時中止 」や「 工期延長 」。
R3	オリンピック ・パラリンピック	○ 令和3年夏、東京2020オリ・パラ競技大会が開催。 ● 「 路上工事の抑制 」や「 車両数の抑制 」を予定。
R4	原油価格・物価高騰	○ コロナ過やウクライナ情勢などによる原油価格・物価高騰の影響。 ● 「 実勢価格を反映した発注 」や「 スライド条項の周知 」を実施。

⇒ 不測の事態等により、事業に様々な制約が発生し、対応が求められる状況